

まちを最大限に生かして、にぎわいを生み出したい――

島田駅前緑地を活用した「サンカク公園プロジェクト」やイルミネーション「シマダテラス」などを手掛ける「ローカル&デザインソライロ」の副代表を務める菱谷さん。人けのない公園や空き家などをリノベーションし、新しい魅力を創出しています。

【起業家になったきっかけ】

さまざまな企業や店舗をプロデュースしてきた菱谷さん。その原点は、家業を継いだ頃にあったと話します。

「短大進学とともに2年間、東京で暮らした後、20歳で島田へ帰郷して家業の洋装店を継ぎました。でも、簡単に成功する訳もなく、初めは上手くいかないことばかりでした。そんな時、チャレンジする気持ちで導いてくれたのは、先輩経営者から掛けられた『もっと自分の好きなことをしたらどうか』とのアドバイスでした。そこで、当時



人気だったアメリカンカジュアルのブランドを島田に持ち込むなど、事業を軌道に乗せるための挑戦を続けました」

【店舗経営から地域経営へ】

菱谷さんは、地域について



リノベーションまちづくりの実践者
菱谷真美子さん（扇町）

考えるようになったのは、4〜5年前のことだったと振り返ります。

「市内で行われたワークショップをきっかけに、まちづくりに携わるようになりました。参加者全員で意見を出

し、身近な課題に対する企画を考える手法に興味を持ち、自社でも実践しました。経営する店舗の後継者が見つかったからは、一層まちづくりに取り組みました。平成28年度に女性議会に参加し、『サンカ

ク公園の活用』などの意見を言えたことも、『サンカク公園プロジェクト』を実現する大きな契機になりましたね」

【都市空間を生かしたまちへ】
「緑のある空間は、心のゆと

りや豊かさにつながるもの。いいまち・いい地域には、きれいで人が集う公園があると思い、駅前にもそんな空間を作ればまちの価値も上がると思い立ちました」

地域を元気にする活動であれば、誰でも公園を借りてイベントができる「サンカク公園プロジェクト」は、新しいまちの使い方を体現している取り組みです。

「今はサンカク公園を中心に、半径200mのエリアの活性化に取り組んでいます。具体的には、空き店舗や空き地を事業者などに知ってもらい、そこを利用してもらうことを目的に、この地区の魅力を伝えていきます。最近、イベントなどで周りの店舗にも相乗効果が生まれてきました。これからも地域全体が潤い、にぎわいも生まれるような、持続可能な仕組みを構築していきたいと思います」

サンカク公園周辺の物件に借主が見つかるなど、徐々に成果が表れていると語る菱谷さん。大好きな地元の魅力を形にするべく、日々挑戦しています。



「シマダテラス」では、島田駅前では上映する写真を募集しています。応募方法は、Instagramでハッシュタグ「#シマダテラス365」を付けて投稿。

Shimadajin File #76

Story 島田人